

『災害時における社会福祉労働者の生存・生活保障実践に関する研究』一宮城県の社会福祉労働者へのインタビュー調査を通して一(中間報告)

石倉康次 (立命館大学産業社会学部 教授)
池田さおり (立命館大学大学院社会学研究科 博士課程後期課程)
北垣智基 (立命館大学大学院社会学研究科 博士課程後期課程)
荒川亜樹 (立命館大学大学院社会学研究科 博士課程後期課程満期退学)
石川由美 (立命館大学大学院社会学研究科 博士課程後期課程)

本研究では、先の東日本大震災において、津波と大地震の被害に見舞われた宮城県沿岸部の福祉事業所に勤務する労働者を対象としたインタビュー調査を通して、被災地の福祉労働者による実践活動の経過と、非常時における判断や実践上の工夫を、証言をもとに明らかにする。そのことを通じて、震災以降、復興に関わってきた福祉労働者が果たした役割と課題を明らかにするとともに、震災から見える現在の福祉政策の課題、また今後の震災への対応に向けた教訓を導き出すことが目的である。

今回の中間報告では、震災を経験した三領域の社会福祉現場(高齢・障害・子ども)で働く労働者の語りから、震災以降の復興に関わってきた福祉労働者が、様々な困難を経験しながらも、その実践を通じて当事者の生存・生活保障を担う役割を果たしてきたことが示された。同時に、福祉現場における災害への備え、行政の対応、現行の福祉政策・制度上の課題等についても、一定の実態が明らかとなった。

(2013年度 人間科学研究所萌芽的プロジェクト採択「宮城県の福祉労働者へのインタビュー調査による「利用者と職員の命をつなぐ」実践に関する研究」)